

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
観光文化資源論		国家試験合格を目指して		手塚 郁子	1年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	観光文化・観光地理・名所旧跡・民俗伝統芸能・郷土特産物			
ディプロマポリシーとの対応		2. 交通産業および関連分野での基礎能力(技術・理論)を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力(技術・理論)を身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	全国の観光名所について知るだけでなく、それぞれの地域の自然的特性やその背景にある歴史、そこから生み出された文化を全般的に学びます。それらによって、各地のさまざまな人々との相互理解やコミュニケーション能力の一助になることを目的とします。					
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目標とします。したがって出題範囲となる文化資源を覚えなければなりません。当該試験に合格するためには、『国内旅行実務』の学習が特に重要な項目として位置づけられています。中でも観光地の内容に関することは、幅広く多岐にわたって出題されるために、要領よく早くから覚えらえるように対策しておく必要があります。					
講義内容	旅行業務取扱管理者試験の科目「旅行実務・旅行業務の取扱いに関する実務処理」に出題される観光資源について、47都道府県に亘り幅広く学習します。この科目はその出題範囲が非常に幅広く、数多くの観光に関するテーマについて、さまざまな角度からその内容を問われます。一般的な地勢はもちろん自然系テーマの山岳、高原、川、滝、渓谷、島、海岸、半島、岬、温泉、洞窟などのほかに、寺社仏閣、祭事や民俗芸能等の開催地と開催月、城、古墳・遺跡、歴史の舞台、郷土料理や特産品・伝統工芸品、美術館や博物館など、試験対策として必要な内容を説明していきます。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	授業概要	授業の内容と進め方・学習方法・評価等の説明			
	第2講	北海道	北海道の観光地とその文化資源			
	第3講	北東北地方	青森県・秋田県・岩手県・宮城県			
	第4講	南東北～関東地方	山形県・福島県・群馬県・栃木県			
	第5講	関東地方	茨城県・千葉県・埼玉県・東京都・神奈川県			
	第6講	中部地方Ⅰ北陸越後地方)	新潟県・富山県・石川県・福井県			
	第7講	中部地方Ⅱ甲信飛騨美濃)	岐阜県・長野県・山梨県			
	第8講	中部～近畿地方(東海～)	静岡県・愛知県・三重県			
	第9講	近畿地方Ⅰ	和歌山県・奈良県・滋賀県			
	第10講	近畿地方Ⅱ	京都府・大阪府・兵庫県			
	第11講	中国地方	鳥取県・島根県・山口県・岡山県・広島県			
	第12講	四国地方	徳島県・香川県・愛媛県・高知県			
	第13講	北九州地方	福岡県・佐賀県・長崎県			
	第14講	南九州地方	熊本県・大分県・宮崎県			
	第15講	南九州～沖縄	鹿児島県・沖縄県			
指導方法	47都道府県の出題範囲を全て説明していきますので、講義が中心になります。膨大な量を限られた時間内で終了させる必要があるため、1回の授業で3～4県進みます。ペースが速いと感じられると思いますが、頑張ってください。要領よく重要なポイントをまとめていくように指導します。					
事前学習	各回に予定されている地方・地域・都市などの位置関係について、地図帳を見て理解しておくことです。テキストの問題など積極的に取り組んで、とにかく一つでも多く覚えなければなりません。毎日、少しずつ(例10分×6日間のように合計1時間程度)継続することが効果的です。					
事後学習	復習は必ず必要で、確実に重要なポイントを覚えるため工夫しながら繰り返し学習して下さい。そしてその地域の練習問題は必ず取り組み、誤った箇所についても確実に覚えていきます。特に地理が苦手な人は、白地図の記入をしながら覚えて下さい。毎日少しずつ合計で最低でも1時間程度。					
成績評価方法	「小テスト第3講～第14講(全12回)各5点×12回」(60%) 小テスト実施日に欠席した場合、小テストの追再試験はありません。「本試験(筆記試験)」(40%)					
テキスト	『旅行業務取扱管理者シリーズ TEXT4 国内旅行実務Ⅱ(観光地理)』 『旅に出たくなる地図 日本』(株)帝国書院					
参考書籍						
特記事項	国家試験の受験希望者は藤野先生の「観光地理」も履修することをおすすめします。					